

2021年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1】

(タイトル)

幅広い視野と柔軟な思考力をもち、自然科学・科学技術の知識を生かして社会貢献できる人材の育成。

(狙い内容)

自然科学・科学技術の幅広い分野にわたって基礎知識と能力を修得し、多様な教養教育により人格形成に努めるとともに広い視野を養い、社会のいろいろな分野で活躍することができる人材を育成する。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

理工学部の学生が、在学中から積極的にキャンパス外で活動し、社会・企業における実践的な演習を通じて実社会を学び、様々な分野で社会から求められるような人材となって卒業してゆくようにする。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

関西学院大学のSGU採択に伴い、全学的にダブルチャレンジ制度が導入される予定である。ダブルチャレンジの目的の1つは、キャンパスを出て、実社会を経験するハンズオンラーニングプログラムの実現であり、そのためには企業等でのインターンシップによる実習科目の充実が必要不可欠である。また就職活動時期の変更に伴い、今後インターンシップの就職活動における重要性が増すと考えられているが、少数の積極的な学生が自発的にインターンシップに参加しているのが現状である。社会貢献できる人材の育成に向け、より多くの学生が実社会を学ぶ機会を設けることが課題となる。

3. 達成度評価

評価指標	実社会を学び、幅広い視野と柔軟な思考力を育むハンズオンラーニングプログラムへの参加学生数	評価尺度	A: 200名以上 B: 100~200名 C: 50~100名 D: 50名未満
------	--	------	--

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
D (0名)	D	D	C	B	B	A

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)

実践的・体験的教育による実社会の課題解決のための応用力養成。

(狙い内容)

実験科目、演習科目、卒業研究を重視し、これらの科目を通して、自然科学・科学技術の最新の研究に携わる機会を持ち、自然科学の真理を探究していくことの楽しさと感動を身近に体験するとともに、自然科学の知識や能力を社会に活かしていくための応用的能力を養う。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

理工学部学生がキャンパス内での学びのみで卒業するのではなく、実社会との関わりの中で、新たな知識を獲得し、問題を発見し、学んだ成果を発信することができるようにする。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

関西学院大学のSGU採択に伴い、全学的にダブルチャレンジ制度が導入される予定である。ダブルチャレンジの目的の1つは、キャンパスを出て、実社会を経験するハンズオンラーニングプログラムの実現である。理工学部では、単位認定するハンズオンラーニング科目を新設して単位認定するだけでなく、学会や研究会への参加を促し、実社会の課題を学んだり、発表したりできるようにする。ただ、このような応用力が養成できているのをどう評価するのかという問題があるので、理工学部独自にて卒業時に学習満足度調査を実施する。

3. 達成度評価

評価指標	実社会の課題解決のための応用力が養成できたかの指標として卒業時にアンケート調査を実施し、6年後には学習満足度が80%以上になるようにする。(2015年度:未実施)	評価尺度	A: 80%以上 B: 60%~80% C: 40%~60% D: 40%未満
------	---	------	--

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
C (未実施)	C	C	B	B	B	A

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)

自然科学・科学技術の知識を生かして、国際的に活躍できる人材の育成。

(狙い内容)

英語の能力は、自然科学・科学技術を学ぶ上で必須の要件であり、研究の成果を世界に向けて発信していくためにも不可欠である。英語に強い理系の人材育成を目指し、英語教育に力を入れる。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

理系におけるESP(English for Specific Purpose)教育を行い、学生が各自の専門分野について英語で表現することができ、他国の同じ専門分野の学生とのコミュニケーションをとれることを目指す。このコミュニケーションとは、通信を通じてやり取りをする以外に、国際学会での発表、情報の交換会、また専門雑誌を通じて論文を記載するという専門分野におけるあらゆる相互行為を示す。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

(1)専門科目に沿った英語教育を1年次から3年次まで行っている。リーディングでは専門分野に係るトピックを設け、コミュニケーションでは2年間で専門分野についてプレゼンテーションができるまでを段階的に指導している。またライティングにおいても同じように2年かけてアカデミックライティングのスキルを学習し、最終的には、専門分野の中からトピックを選んでエッセイが書けるまで指導する。(2)SGUプロジェクトの一環として、専門分野ごとのフィールドワークや現地の大学との交流を図る研修制度を構築しつつある。

3. 達成度評価

評価指標	「科学技術英語」・「千刈集中英語実習」、SGU交流研修制度に参加した学生らにアンケートを取り、成果・満足度(項目「積極的に取り組んだか」「授業目的に即した成果が得られたか」「授業に満足したか」等)を測る。	評価尺度	A: 80%以上 B: 60%~80% C: 40%~60% D: 40%未満
------	--	------	--

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
C	C	C	B	B	B	A